

生産過程は、投入集合 (Input Set) から産出集合 (Output Set) への写像 (Mapping) と見なすことができる。投入集合の基本は天然資源である。市場経済では、天然資源も製品のように価値で測ることになって、それは物量集合から価値量集合への準同形 (Homomorphism) となる。天然資源は労働製品ではないが、その価値量は、根本的にはそれが吸収する労働の量または節約する労働の量により決定される。

地域経済開発は一定の産業構造を通じて実現しなければならない。ときには、域内の資源構造を同形しない産業構造は経済的安定性を保証することができない (例えば、オーストラリアの鉄鉱石に依存する上海宝山製鉄所)。資源競争が激しい現代、域内資源の重要性がますます高まっている。現行産業連関表を用いて域外資源 (さらに国外資源) の供給がボトルネックとなるおそれがある産業を検出することができる。

2000 年から 2005 年にかけて、寧夏の経済は、一人当たりの GDP は、全国 24 位から 21 位に上昇したが、それは 10087 円で全国平均の 72% となる。寧夏の 3 次産業における特化係数が 2000 年の (1.10, 0.89, 1.12) から 2006 年の (0.94, 0.98, 1.04) になっており、全国の 3 次産業構造の縮図に近づいている。つまり、産業構造において寧夏は特徴を失っているようである。今後、寧夏は地元の資源優勢に合わせ産業構造の調整を通じて地域経済開発を推進する必要があると思われる。

題名	資源賦存、産業構造と地域経済開発
キーワード	持続的成長、循環経済、準同形、ボトルネック、閉鎖性
参考文献	1. 張 忠任「産業政策論に関する新視点」『総合政策論叢』第 8 号 (2004 年 12 月) 2. 張 忠任「環境と資源の価値問題について」『総合政策論叢』第 12 号 (2006 年 10 月)